



陽気は幸せの種

陽気だより

No77

2013.815

●ホームページからも「陽気だより」
最新号・バックナンバーをご覧いただけます

<http://yotokusha.com/>

図書出版 養徳社 〒632-0016 天理市川原城町 388 TEL 0743 (62) 4503 / FAX 0743 (63) 8077

養徳社

検索

第9号 (昭和25年2月号) から

『陽気』は、昭和24年4月の創刊、今年で64年を迎えます。過去の記事から、その歩みの一端を振り返っていきます。



こゝろ

今西國三郎

(山陰大教会六代会長 一八九四・一九六九)

いつか落語家の話にこんなことを聞いたことがあります。

人間の心というものは、時代が進むにつれて段々と上へあがるものとみえます、という前置きで、昔は心は寧丸あたりにあったものとみえて、その証拠には、心してかかれということ、禪(ぜん)をしめてかかれと言っていました。ところが、それが後には少し上へあがって、腹のあたりにあるようになってきたらしい。その証拠には、俺の腹は決

まっているとか、あの人の腹は黒いとか申します。それが段々と上へあがって、次には胸のあたりに来たようで、万事は俺が胸にあるというようなことを申します。

ところが、世の中が進みまして、近頃ではあの人は頭が良いとか、あの人の頭は悪いとか申しまして、心はどうやら頭にあるようになって来たようでありませう。もうしばらくすると、あの人のこのへんが良いとか悪いとかいうようになりましようと言つて、頭の一寸ほど上の方を扇子で指していたのを聞いたことがあります。

なるほど、人間の心は身体はどこにあるのかと聞かれたら、腹にあるとも、胸にあるとも、頭にあるとも言えるようでありませう。

しかし、さて、そのうちのどれが本当であるとも言えないようであります。心の澄んでいる時は、足の脛(すね)に蚤(のみ)が這つていてもわかるし、うしろから髪の毛を微かにさわっただけでも、すぐにそれを感じることが出来ます。

それどころではない、うしろからおとと足音一つたてずに人が近寄つて来ても、その気配を感じて背後を見返ることもよくあることであります。あるいは靈感とも言われていますように、遠くの事柄でも不思議に目で見ると如くに感じることさえあります。

してみると、心というものは、まことに不思議なもので、しかもそれが身体はどこにあるとは言えないのが本当であります。強いて言えば、心というものは全身に満ち満ちている実に不思議な働きとでも申すよりほかありません。

おふでさきに、「たん／＼となに事にてもこのよふわ 神のからだやしやんしてみよ

三四十」とありますが、この世が親神様の身体であり、この世界のすべてのものに満ち満ちている不思議な働きが親神様のお心でありますように、私どもの全身のいたるところに満ち満ちた不思議な働きが心であると申すことも出来るであります。

私どもの心の働きは、必ず肉体を通して起こってくるということは、否めない事実であります。美しいものを見て快く思い、嫌なものを見て顔をそむけるのも、良いことを聞いて喜び、気にいらぬことを聞いて腹を立てるのも、うまそうな物を見、香ばしい匂いを嗅いで食べたいと思うのも、寒いから重ね着をし、暑いから肌ぬぎをしたくなるのも、みな肉体を通して起きる心のもので、起きることを思い出す時に、どう考えてみても、心の働きは肉体の感覚を通して起こってくるものがあります。東京の震災の時に、九段の坂下で、バナナ一房のために、車夫と立派な紳士とが、つかみ合いの喧嘩をしたという話がありますが、空腹の結果で、人はそれほどの心にもなるのであります。

教祖様は、人間の本尊は各人の魂であって、身体は魂に着せた着物であるというように、わかりやすくお教え下さいました。その肉体という着物を通しての魂の働きが心であると悟ることも出来ると思います。

教祖様の御教に従えば、一列の人間は、親神様によって初めて拵えて頂いてから、ただ着物の着替えをさせて頂いているだけで、この世に生きているのであります。

人間は長い年限を経るうちに、肉体を通しての心の働きが次第に複雑になるにしたがって、良い意味にも悪い意味にも、心の成人をしてきたものと観ることが出来ましょう。今世一代だけで考えてみても、生まれた子供が、肉体を通しての心の働きが肉体の発達につれて次第に複雑になって心の成人をするようなものであります。

この心の成人を、親神様の思召である陽気暮しの方向に導いて下さるのが心のふしんと悟ることも出来ます。それは親が子供の心の成人を正しきに導くように。

銀幕うかし話

★舟橋聖一が朝日新聞に連載、モデル問題で有名になった「花の素顔」は、映画化の版權料六十万円という、これも戦後最高記録で松竹が入手、秋の大作として撮影を開始した。さてこの物語、例の如く舟橋好みの濃厚な場面が各所にある。若原雅夫と折原啓子

が同じ寝室で起居を共にする場面など、ああでもない、こうでもない、と渋谷実監督が注文を続出。テスト数回に及んで、ご両人すっかり悲鳴をあげてしまった。テストオーケーでいよいよカメラが廻り

始めたトタン、いずこからか現れた野良犬一匹、ゆうゆうとカメラの前を横切ったので、遂にこのカットは撮り直しとなったが、これを見て喜んだ折原啓子、すかさず「先生、これこそ苦心のワン・カットですわね」

★市川右太衛門、この頃は、もっぱらダンス熱に浮かされ、撮影所のダンスパーティーにもちよくちよく顔を出すが、さてこのダンス熱もいつまで続くのか。傍にいた喜多川千鶴「右太衛門さんは他のことは飽きてしまうかもしれないけど、ダンスだけは長続きするわよ。だって、ダンス長持ちというもの」

『陽気』定期購読受付中!!

◎定期購読をお申込みいただくと、毎月発売日に合わせてお手元に届き、買い漏れなく確実にお読みいただけます。

毎月一冊の定期購読の誌代は半年分一、六〇〇円・一年分三、二〇〇円 (送料込)

申込方法

ゆうちょ銀行の青い振込用紙をご利用ください。

(口座番号〇〇九九〇・三・一七六九四加入者名養徳社)

お客様の住所、氏名、電話番号をはっきりご記入下さい。

話題の書

中臺 勘治著

人間がたすかる原理

■おたすけの虎の巻としていつも持ち歩いています。(45歳・教会長)

定価 1,365 円(税込) 送料 200 円

好評

幸せを呼ぶ言葉

榮嶋憲和著



新書判 192 頁・定価=735 円(税込) 送料 150 円

陽気 9

特集 第二の人生



最新アンタ知っていますか? 「がん」のこと...久須美房子
連載小説 9 まぼらま...出久根達郎

購読に関する問合せ先

☎ 0120-920-398

養徳社 業務部窓口

【陽気担当者変更届け】陽気お取扱者ご担当者様のご変更の際、弊社ホームページよりファイルをダウンロードいただき、必要事項にご記入いただきファックス下さるか、メールでご連絡ください。折り返し弊社業務部からご連絡させていただきます。 F A X...0743-63-8077 (24時間 年中無休)

郵送...〒632-0016 奈良県天理市川原城町388 養徳社 業務部 メール...youtokusha-eigyoku@poem.ocn.ne.jp